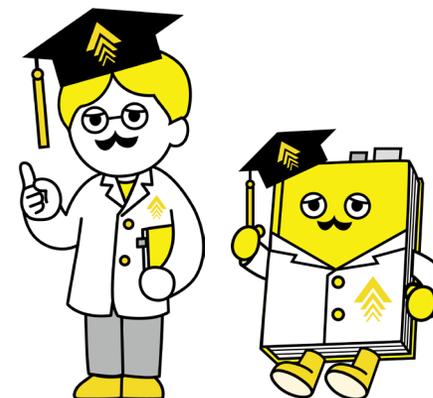


# 2025年9月期 決算説明会

Financial results briefing materials for the fiscal year ended September 2025

2025年11月20日

Circulate  
the possibilities



アサカ理研公式キャラクター

リケン博士

本にも変身できる

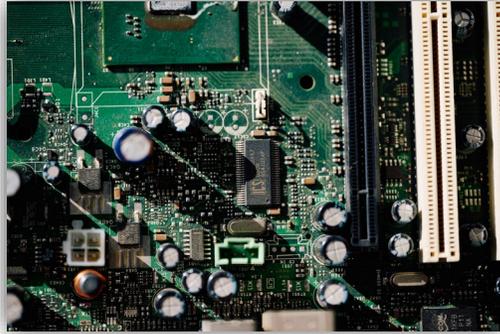


株式会社アサカ理研

証券コード：5724

1. 事業概要
2. 2025年9月期 決算概況
3. 2026年9月期 業績見通し
4. LiB再生事業の進捗
5. 株主還元方針

1. 事業概要
2. 2025年9月期 決算概況
3. 2026年9月期 業績見通し
4. LiB再生事業の進捗
5. 株主還元方針



## 社是

「豊かな創造性を発揮し、社会貢献を果たす」

持続可能なサーキュラーエコノミーを実現し  
環境・社会問題の解決へ

「都市鉱山」から有価金属を回収する  
資源再生メーカー

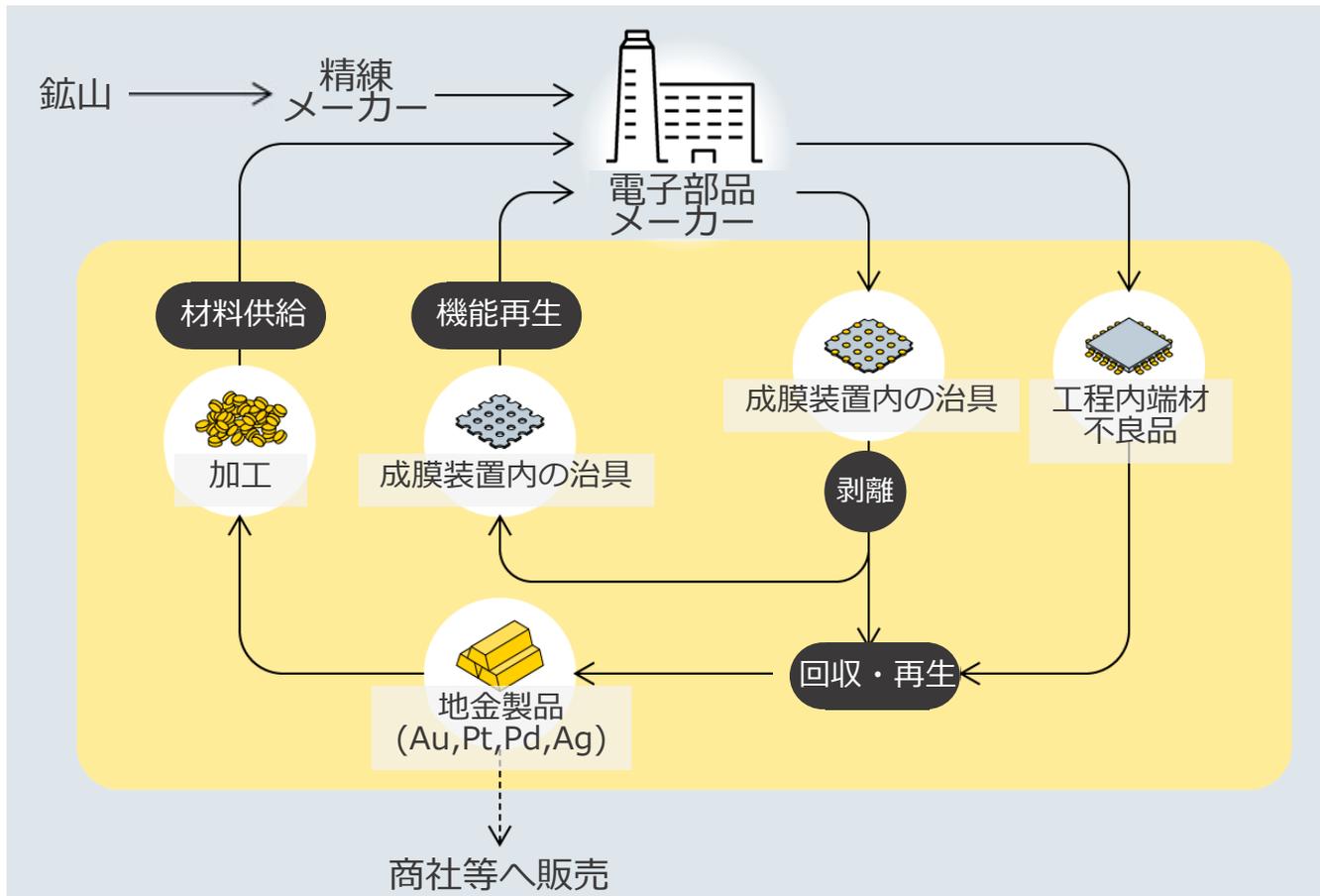
社名	株式会社アサカ理研
代表	代表取締役社長 山田 浩太
設立	昭和44年8月25日 (1969年8月25日)
資本金	504百万円
本社所在地	福島県郡山市田村町金屋字マセ口47番地
連結子会社	アサカ弘運株式会社
従業員数	257名(2025年9月末現在)
認証取得	ISO9001・ISO14001
上場市場	東証スタンダード市場 (5724)



# 貴金属事業 事業の全体像

- 金を扱う主力事業
- 当社収益の約80%を占める

- 電子部品メーカーの製品端材、不良品から金を回収・再生
- 電子部品メーカーの製造装置に付着した金を剥離・洗浄・再生



## ◎ 当社の主要取扱製品

- ・ 主にスマートフォンやタブレット向けの水晶振動子や半導体、コネクタに含まれる貴金属
- ・ 金が売上高の大半を占める

## ◎ 市況

- ・ 新型コロナ禍における巣ごもり需要の反動により2023年頃から在庫調整局面が長期化
- ・ 需要は緩やかな回復傾向にあり、当社の取り扱う貴金属量も段階的に増加している

## ◎ 貴金属相場

- ・ 金の価格は地政学リスクやインフレ懸念に伴う安全資産としての需要の高まり等の要因で高騰

# 貴金属事業 主たる商流

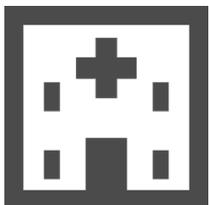


電子部品メーカー



半導体業界  
コネクタ業界  
水晶振動子業界

歯科医院



電子部品の  
工程内端材・不良品

仕入



成膜装置内の治具  
(防着板/メタルマスク)

受託

返却



仕入  
歯科スクラップ

仕入



販売

販売

商社など



- 受託/返却取引は金の付着した治具を預かり、当社が洗浄する
- 洗浄後の治具と回収した金をお取引先様に返却し、当社は加工賃をいただく

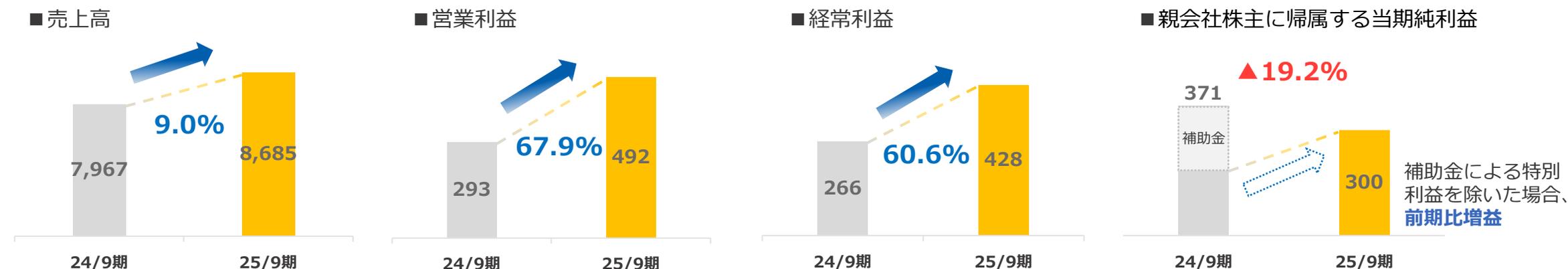
- 銅を扱う当社の祖業
- 回収した廃液を余すところなくリサイクル



1. 事業概要
2. 2025年9月期 決算概況
3. 2026年9月期 業績見通し
4. LiB再生事業の進捗
5. 株主還元方針

# 連結損益計算書(前期比較)

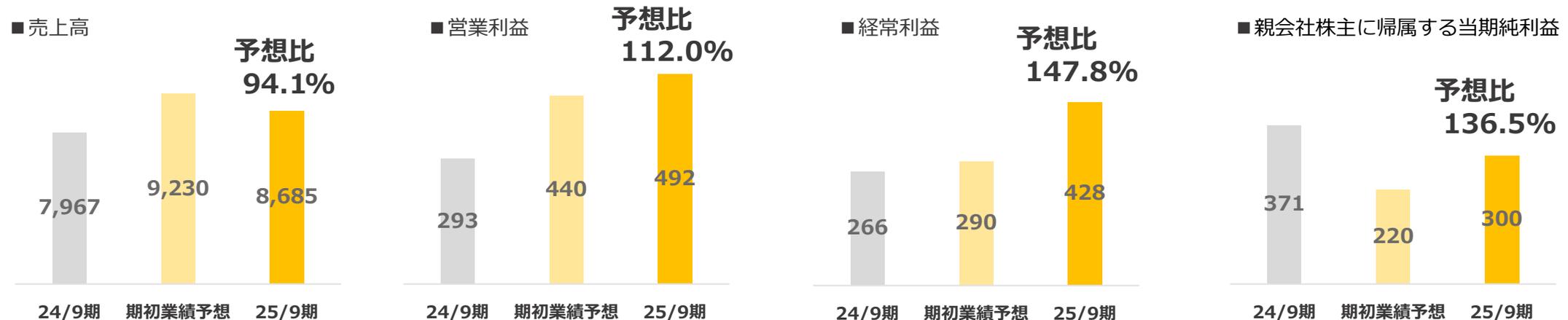
(百万円)	24/9期	25/9期	増減	増減率
売上高	7,967	8,685	718	9.0%
営業利益	293	492	199	67.9%
経常利益	266	428	161	60.6%
(経常利益率)	3.4%	4.9%	1.5pt	-
親会社株主に帰属する当期純利益	371	300	▲71	▲19.2%



- 金及び銅の相場上昇により売上高は増収、営業利益・経常利益は増益
- 当期純利益は2024年9月期に補助金等の特別利益244百万円を計上したことで前期比で減益

# 連結損益計算書(期初業績予想比較)

(百万円)	期初業績予想	25/9期	予想比
売上高	9,230	8,685	94.1%
営業利益	440	492	112.0%
経常利益	290	428	147.8%
(経常利益率)	3.1%	4.9%	1.8pt
親会社株主に帰属する当期純利益	220	300	136.5%



- 取引先の減産基調の影響により売上高は期初業績予想を下回る
- 金及び銅の価格が予想を上回ったこと及び全社的な経費削減の取り組みにより、期初業績予想を上回る利益を確保

# 各セグメント別実績



(百万円)

※各セグメントの売上高についてはセグメント間取引を含んでおります

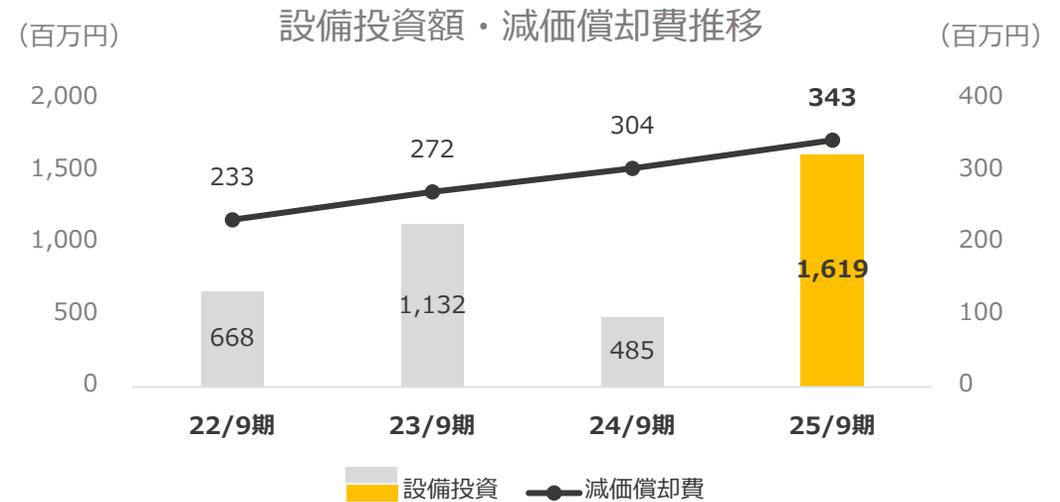
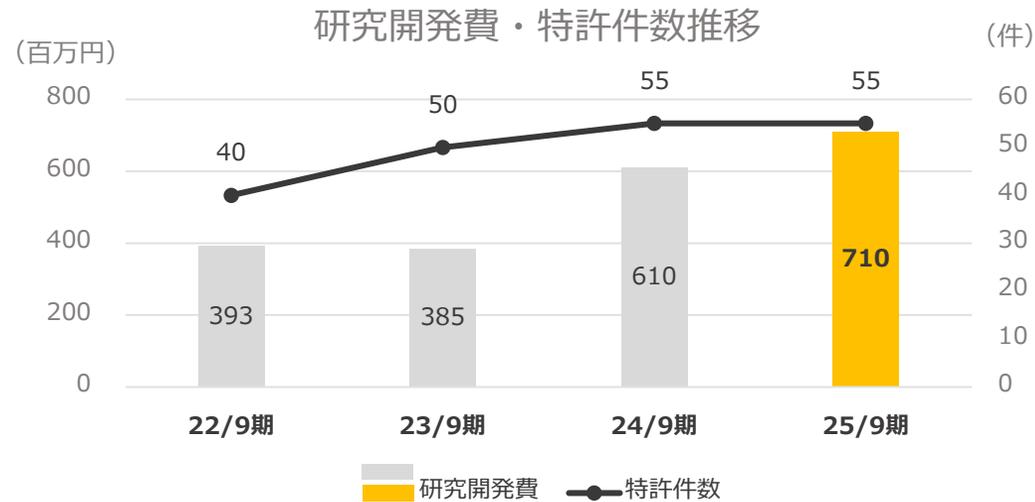
	24/9期	25/9期	増減
貴金属事業	売上高	6,530	7,267 ▲737 11.3%
	セグメント利益	142	301 ▲159 111.9%
環境事業	売上高	1,205	1,202 ▲2 ▲0.2%
	セグメント利益	74	71 ▲3 ▲5.1%
システム事業	売上高	216	196 ▲20 ▲9.5%
	セグメント利益	17	16 ▲0 ▲4.9%

- + 金を中心とした貴金属相場の上昇により増収増益
- + 高付加価値製品の販売数量増加により利益率が向上

- + 塩化第二鉄液の販売数量の増加
- 銅ペレットの生産数量の減少

- 前期に大型案件が一服し品質管理システムの売上減少

# 2025年9月期 研究開発費・設備投資・減価償却費



※特許件数はLiB再生事業の研究開発による出願件数の累計値を記載しています。  
 ※特許件数は公開された件数のみであり、未公開の件数は含まれません。

**研究開発費**：LiB再生事業の実証試験等の研究開発活動に積極投資を継続  
 連続実験の実施や研究開発に伴う消耗品費の増加等により、前期を上回る

**設備投資**：LiB再生事業の量産プラントであるいわき工場への投資により前期を上回る

**減価償却費**：LiB再生事業の実証試験用設備の稼働等により、前期を上回る  
 (いわき工場への投資設備分は建設仮勘定の状態)

# 連結貸借対照表



(百万円)

	24/9期	25/9期	増減	要因
資産合計	8,543	<b>13,806</b>	5,262	LiB再生事業の借入による資産増加
流動資産合計	3,724	<b>7,922</b>	4,197	現預金、商品及び製品の増加、金相場の高騰
固定資産合計	4,819	<b>5,884</b>	1,064	
有形固定資産	4,282	<b>5,502</b>	1,220	LiB再生事業の設備取得に伴う建設仮勘定の増加
無形固定資産	77	<b>55</b>	▲ 21	
その他	460	<b>325</b>	▲ 134	保険解約に伴う減少
負債合計	3,894	<b>8,880</b>	4,986	
流動負債	1,910	<b>3,085</b>	1,174	金(Au)の借入増加
固定負債	1,983	<b>5,795</b>	3,811	長期借入金の増加
純資産合計	4,649	<b>4,925</b>	276	
自己資本比率	53.96	<b>35.39</b>	▲18.57	有利子負債増加に伴い
D/Eレシオ（負債資本倍率）	0.42	<b>1.15</b>	0.73	自己資本比率低下、D/Eレシオ上昇

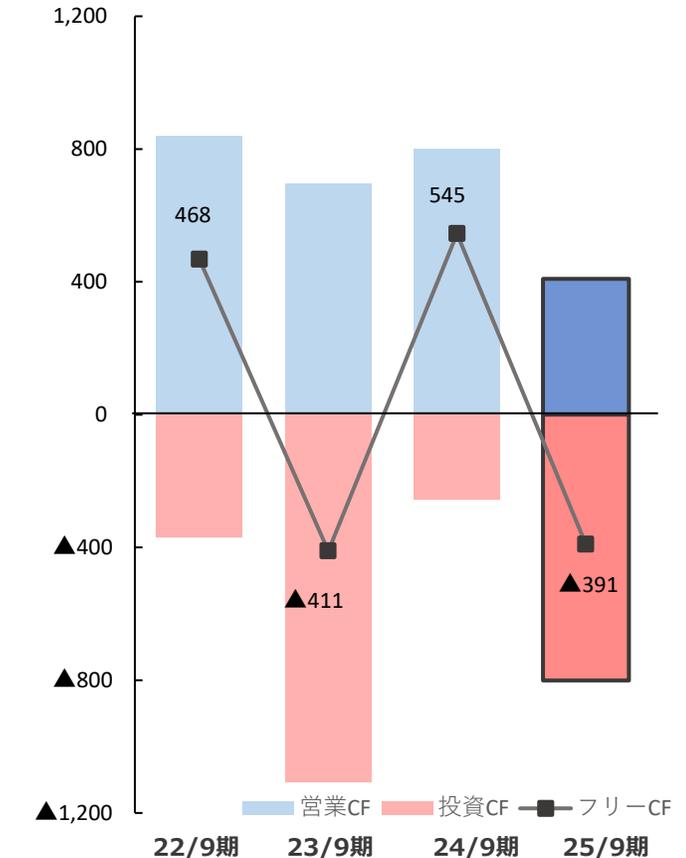
- LiB再生事業に係る設備投資資金の調達により、流動資産、固定負債が増加
- LiB再生事業に係る設備は稼働開始まで建設仮勘定として計上
- 金製品への加工量増加により、金(Au)の借入数量が増加

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	22/9期	23/9期	24/9期	25/9期
営業活動によるCF	838	697	799	<b>409</b>
税前当期純利益	802	386	508	<b>380</b>
減価償却費	232	271	304	<b>343</b>
その他	▲196	39	▲13	▲ <b>313</b>
投資活動によるCF	▲369	▲1,108	▲254	▲ <b>801</b>
有形固定資産の取得	▲589	▲1,054	▲475	▲ <b>1,541</b>
その他	219	▲53	220	<b>740</b>
財務活動によるCF	▲179	202	▲785	<b>3,551</b>
借入金借入・返済収支	▲120	438	▲711	<b>3,697</b>
その他	▲58	▲235	▲73	▲ <b>146</b>
現金及び現金同等物	1,346	1,138	890	<b>4,050</b>
フリーCF	468	▲411	545	▲ <b>391</b>

(百万円)



- LiB再生事業に係る設備投資資金の調達により、現金及び現金同等物は増加
- 投資活動によるCFのその他は定期預金の払い戻し及び保険積立金の解約による収入

1. 事業概要
2. 2025年9月期 決算概況
3. 2026年9月期 業績見通し
4. LiB再生事業の進捗
5. 株主還元方針

# 2026年9月期 連結業績予想



(百万円)

	25/9期 実績	26/9期 予想	前期比	
			増減	増減率
売上高	8,685	<b>8,800</b>	115	1.3%
営業利益	492	<b>400</b>	▲ 92	▲18.7%
経常利益	428	<b>200</b>	▲ 228	▲53.3%
(利益率)	(4.9%)	<b>(2.3%)</b>	(▲2.7pt)	
親会社株主に帰属する当期純利益	300	<b>190</b>	▲ 110	▲36.7%
1株当たり当期純利益(円)	59.77	<b>37.80</b>	▲21.97	▲36.8%

売上高 : 環境事業、システム事業での製品販売増加に伴い増収の見通し

営業利益 : LiB再生事業の工場稼働開始に向け、  
労務費等の準備費用が増加することにより減益の見通し

経常利益 : LiB再生事業への投資に伴う借入の支払利息の増加、  
2025年9月期に保険解約返戻金を計上した反動により減益の見通し

# セグメント別予想

各セグメントの売上高はセグメント間取引を含んでおります (百万円)

	25/9期	26/9期	前期比
貴金属 事業	売上高	7,267	▲80 ▲1.1%
	セグメント利益	301	▲106 ▲35.2%
環境事業	売上高	1,201	226 18.8%
	セグメント利益	71	▲51 ▲71.8%
システム 事業等	売上高	543	145 26.7%
	セグメント利益	55	▲70 -

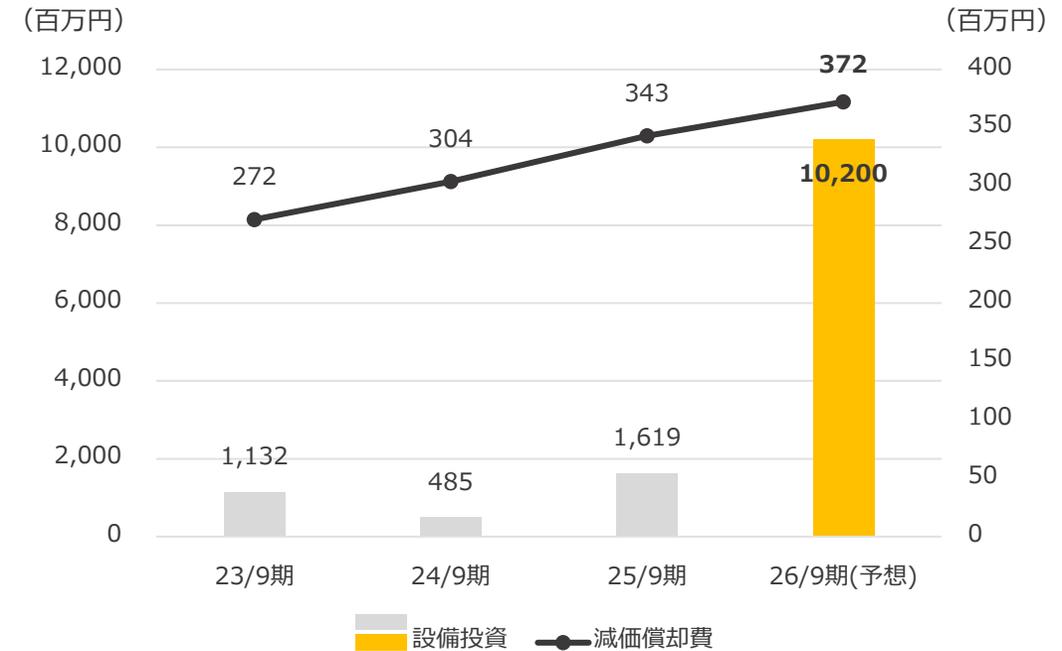
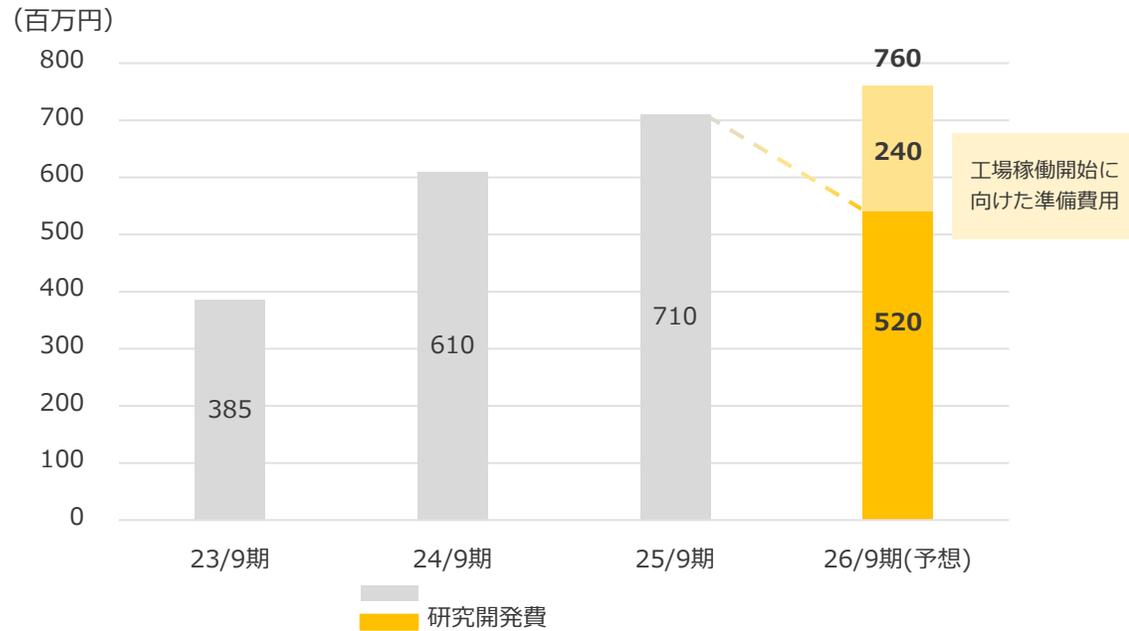
± 金を返却する取引(加工賃売上)が拡大し  
金の販売を伴う取引が縮小することでの減収  
- 全社間接費用配賦※の増加により減益

+ 銅及び再生した薬液の販売量増加に伴い増収  
- 全社間接費用配賦の増加により減益

+ システム事業の売上増加に伴い増収  
- 全社間接費用配賦の増加により減益

※全社間接費用配賦はLiB再生事業開始に向けた準備費用等によるもの

# 2026年9月期 研究開発費・設備投資・減価償却費



**研究開発費**：LiB再生事業の実証試験等の研究開発活動への投資を継続  
同事業の工場稼働開始に向け、労務費等の準備費用を含めると前期を上回る見込み

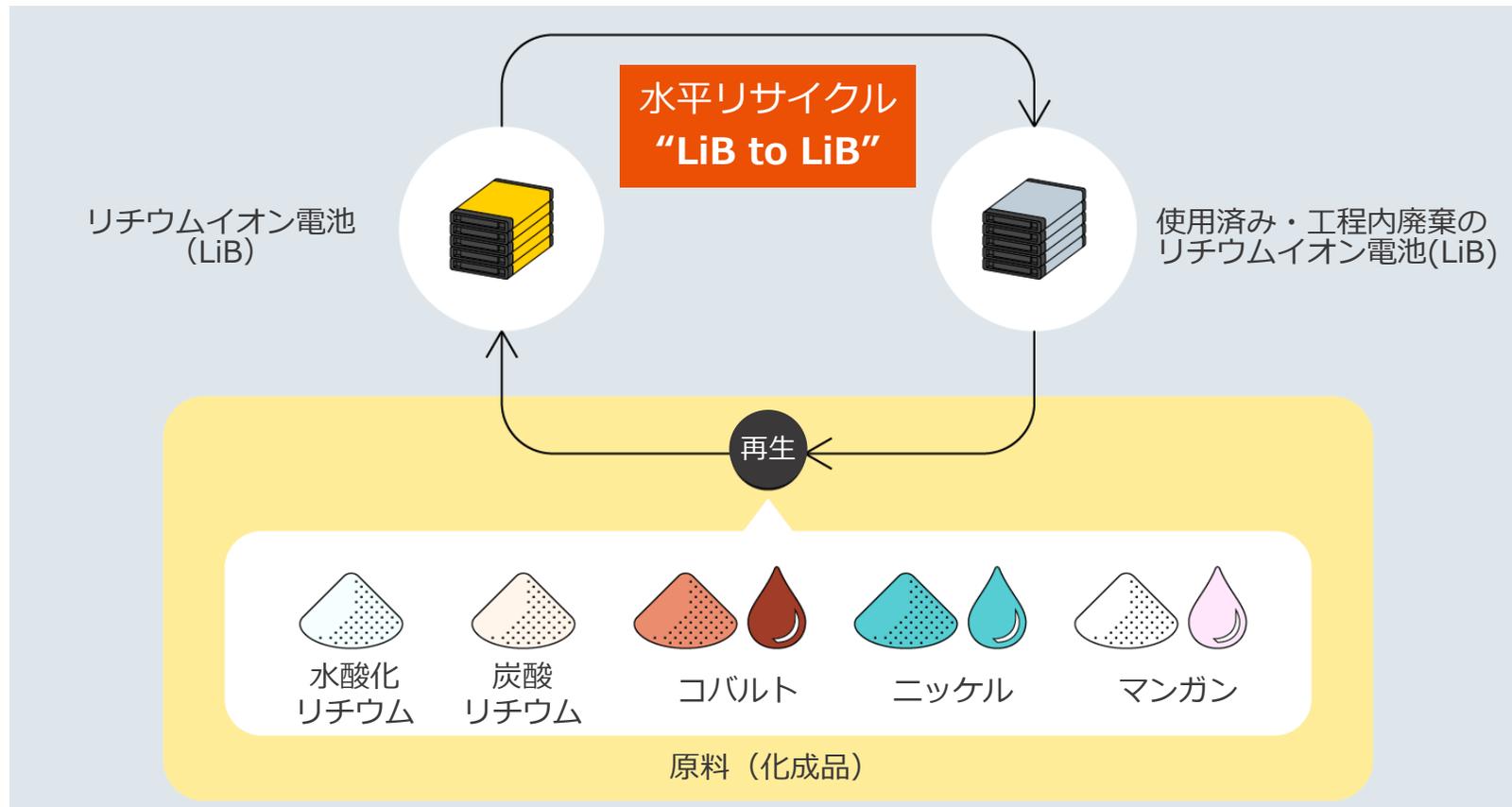
**設備投資**：LiB再生事業のいわき工場の増設及び量産設備への投資に伴い前期を上回る見込み  
(同事業への投資総額は、2026年9月期までに約95億円を予定)

**減価償却費**：LiB再生事業の実証試験用設備の稼働等により、前期を上回る見込み

1. 事業概要
2. 2025年9月期 決算概況
3. 2026年9月期 業績見通し
4. LiB再生事業の進捗
5. 株主還元方針

「LiB to LiB」の実現で  
脱炭素を目指す新規事業

- ・電気自動車(EV)のLiBからレアメタルを抽出し  
再びLiBの原料として供給(LiB to LiB)
- ・現在はいわき工場の量産プラント建築と研究開発に注力



## 脱炭素化への課題(ニーズ)

- ・ LiBの原料であるレアメタルの供給懸念
- ・ EVの廃棄に伴うレアメタル資源の消失



## LiB再生で提供する価値



- ・ CO<sub>2</sub>排出量の削減(脱炭素化)
- ・ レアメタル資源枯渇の防止
- ・ 鉱山開発による環境破壊の防止

### 中期戦略

2028年～2035年



#### LiB工程廃材※にフォーカス

※LiB製造工程で発生する端材や不良品

- ◎ 集荷が比較的容易
- ◎ 早期に収益化が見込める

2030年LiB工程廃材見通し

当社  
処理量

約1.5万台分

市場供給量

約10万～50万台(当社試算)

### 長期戦略

2035年以降



#### 使用済みLiBとLiB工程廃材を平行処理

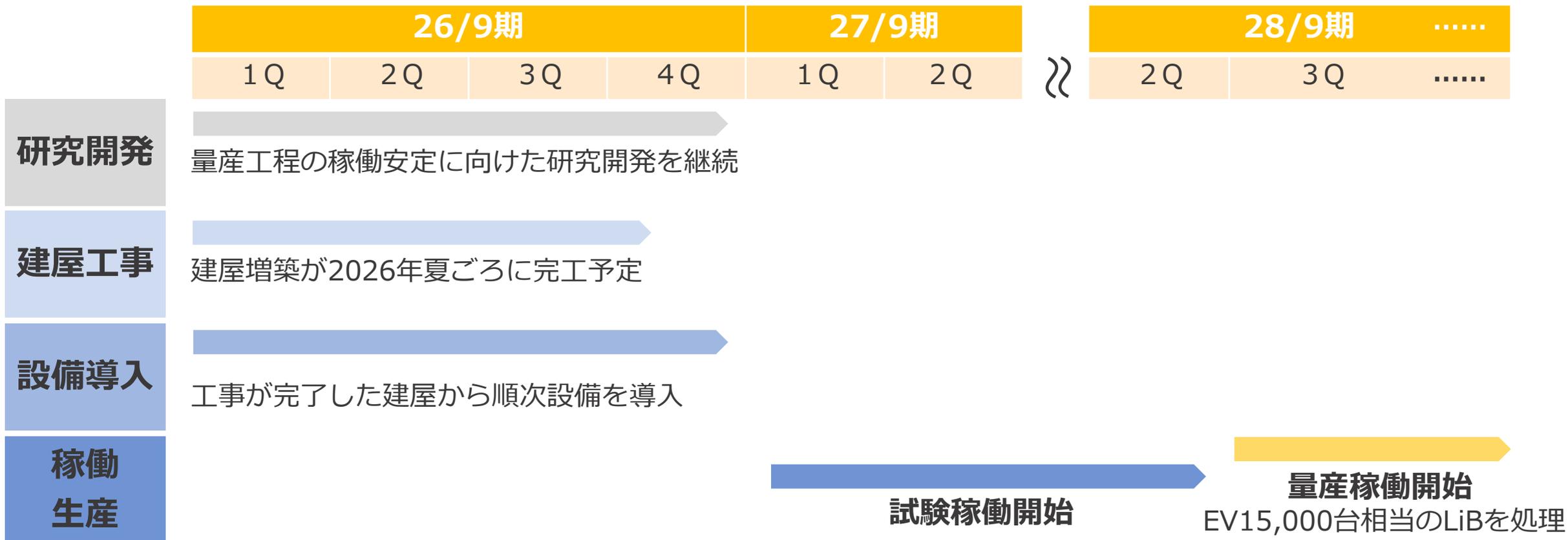
- △ 発生時期が早くても2030年代後半
- ◎ 数量はLiB工程廃材を大きく上回る



#### LiBトレンドの変化への対応

- ◎ LiBの走行距離増加(高容量化)に必要な水酸化Liの量産技術を保有

# 工場稼働までのスケジュール



- 2026年10月から試験稼働期間を約1年半設け、当社が再生させたレアメタルの品質をサンプル品としてお取引先様にご確認いただく
- 2028年4月の商用化開始の時期から工場の処理キャパシティ見合いの原料を調達し稼働率が100%に近い状態に達する計画

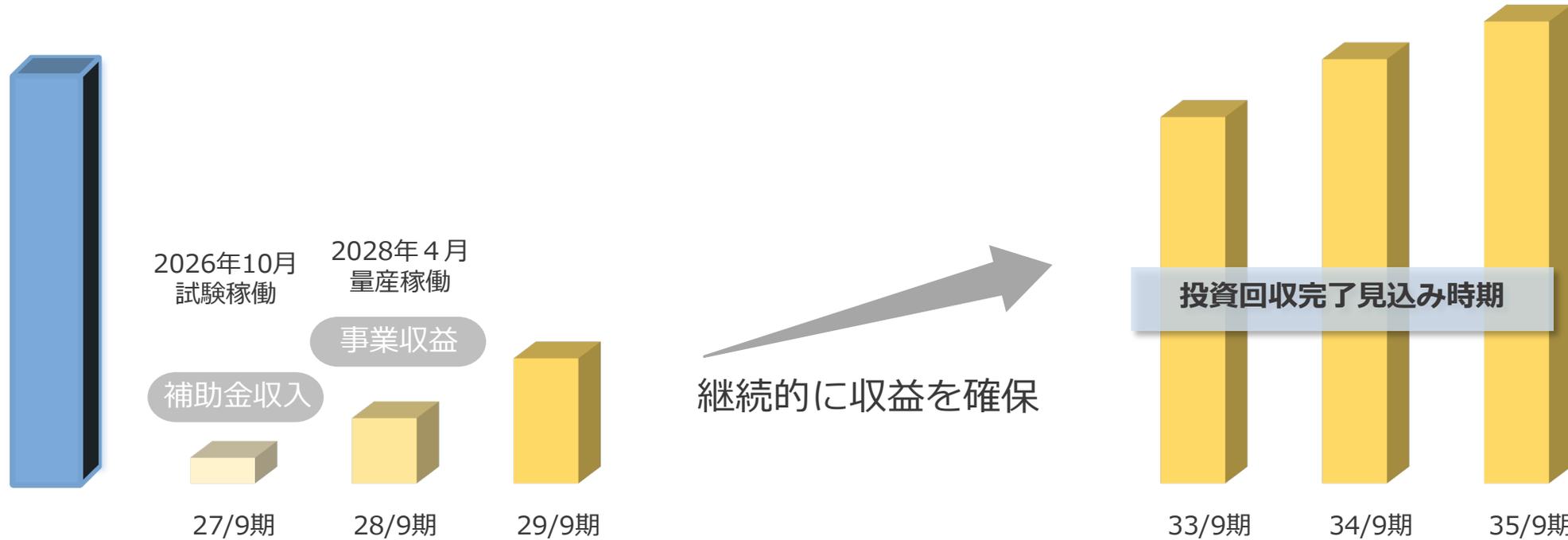
# 投資回収計画

設備投資  
総額95億円

サンプル品  
製造フェーズ

量産稼働  
安定化フェーズ

投資回収フェーズ



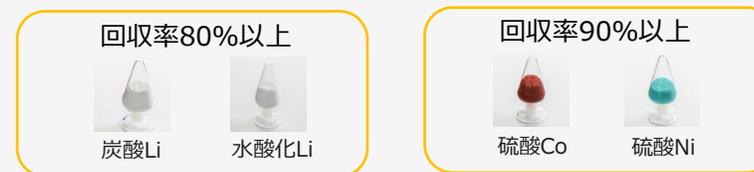
- 2028年4月の量産稼働開始後、1年程度の期間で稼働率を100%に近い状態で稼働を安定させる
- 稼働安定後は継続的な収益確保により2034年9月期前後の投資回収完了を見込む

独自の薬液循環工程

## 最高水準の資源回収率

- 有限な資源の活用のために高回収率を重視
  - 国際的なLiBリサイクル規制への適応※1
- ※1 EUがLiBからのレアメタルの回収率目標値を定めたEU電池規則の現時点の目標値の達成

レアメタル回収率は世界トップクラス  
(回収難度の高いリチウムの高回収)



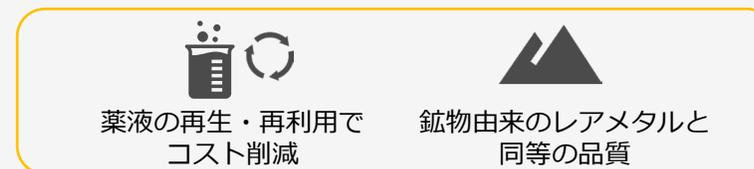
## 脱炭素と環境負荷低減

- 当社独自のクリーンなリサイクルプロセス



## 高品質・低コストの達成

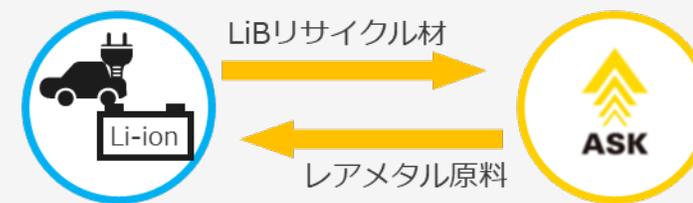
- 鉱物由来資源に劣らない品質とコストを実現



## リサイクル材の国内安定調達

- 国内最大規模の車載用LiBメーカーであるプライムプラネット エナジー&ソリューションズ(株)からLiBリサイクル材料を継続的に調達

プライムプラネット  
エナジー&ソリューションズ(株)

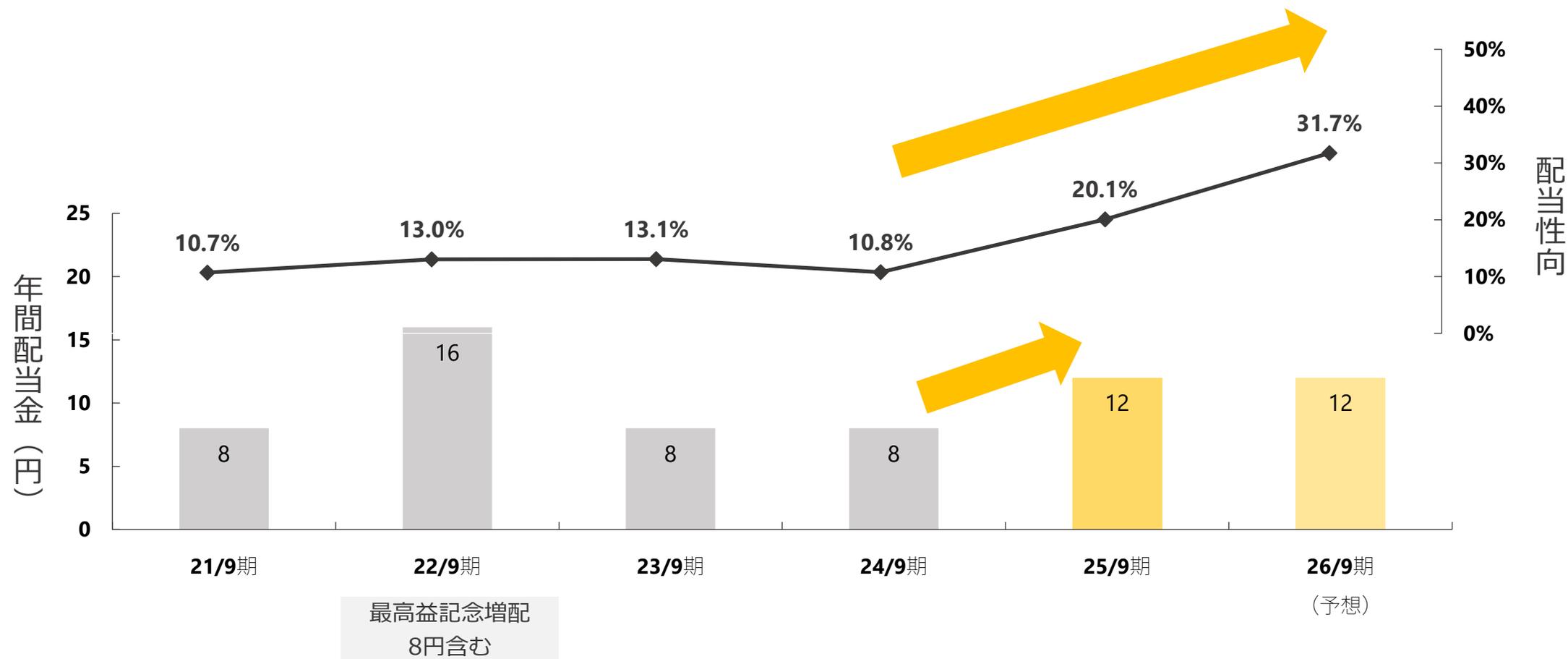


ビジネス  
スキーム

1. 事業概要
2. 2025年9月期 決算概況
3. 2026年9月期 業績見通し
4. LiB再生事業の進捗
5. 株主還元方針

# 配当金と配当性向の推移

- 2025年9月期は当初配当予想8円から12円に増配
- 2026年9月期は配当方針を策定し、12円の配当を継続



## 市場評価の現状分析

**PBR** 【実績平均】  
2025年10月：**1.8倍**  
2024年10月～2025年9月：1.2倍

**PER** 【実績平均】  
2025年10月：**46.3倍**  
2024年10月～2025年9月：19.6倍

※2025年10月の1株当たり純資産は2025年度実績値、  
1株当たり純利益は2026年度業績予想の数値を使用。

非鉄金属業内の比較では、  
**スタンダード市場を上回り、  
プライム市場に近い水準**

### 【市場との比較（2025年10月基準）】

	PBR	PER
プライム市場全体	3.0倍	23.3倍
スタンダード市場全体	1.5倍	21.0倍
非鉄金属業（プライム市場）	2.0倍	28.5倍
非鉄金属業（スタンダード市場）	1.2倍	13.0倍

データ引用：  
[日本取引所グループHP](#)より

※PBRとPERは加重平均により  
算出しています

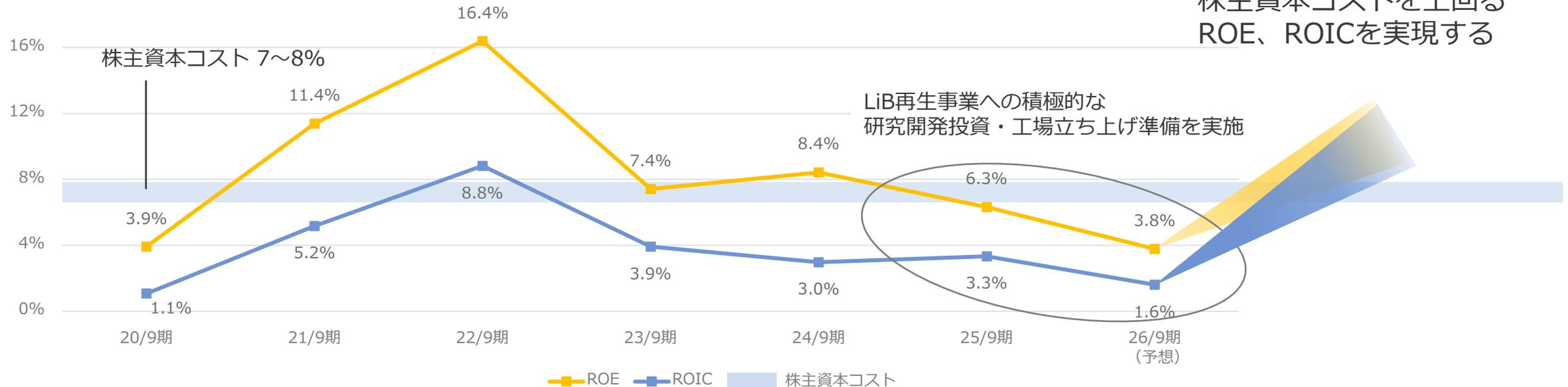
# 株主資本コストを上回る収益基盤の向上に向けて

## 株主資本コスト CAPM（資本資産価格モデル）による算出

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{リスクフリーレート※} \\ \hline 1.6\sim 1.7 \\ \hline \end{array}
 +
 \begin{array}{|c|} \hline \text{市場} \\ \text{リスクプレミアム} \\ \hline 6\sim 7 \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \beta \\ \hline 0.9 \\ \hline \end{array}
 =
 \begin{array}{|c|} \hline \text{株主資本コスト} \\ \hline 7\sim 8\% \\ \hline \end{array}$$

※ 日本国債10年利回りにて算定

### 【ROE、ROIC(投下資本利益率)の推移】

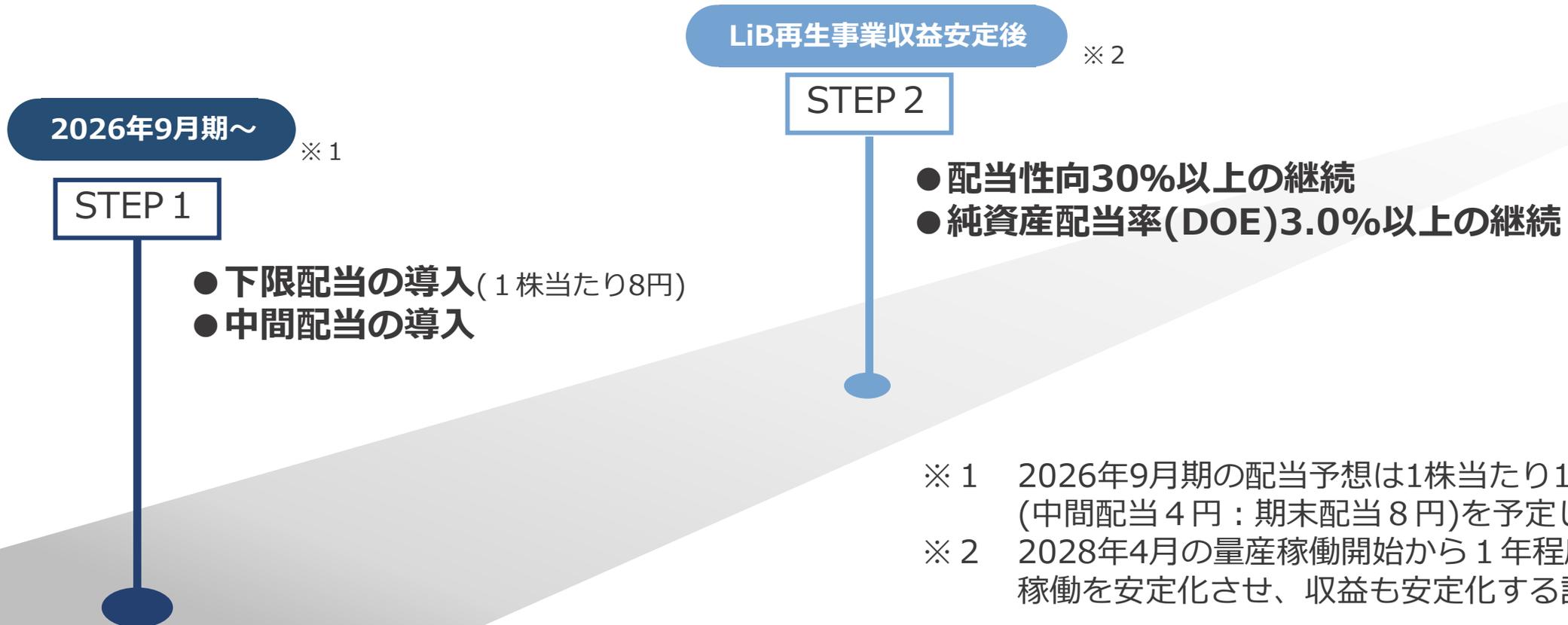


LiB再生事業の開始により  
株主資本コストを上回る  
ROE、ROICを実現する

LiB再生事業への積極的な  
研究開発投資・工場立ち上げ準備を実施

# 配当方針

株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の一つと位置付け、資本コストや株価を意識した経営の実現に向け、安定的かつ機動的な配当の継続実施を原則とし、段階的に株主の皆様への利益還元を強化いたします。

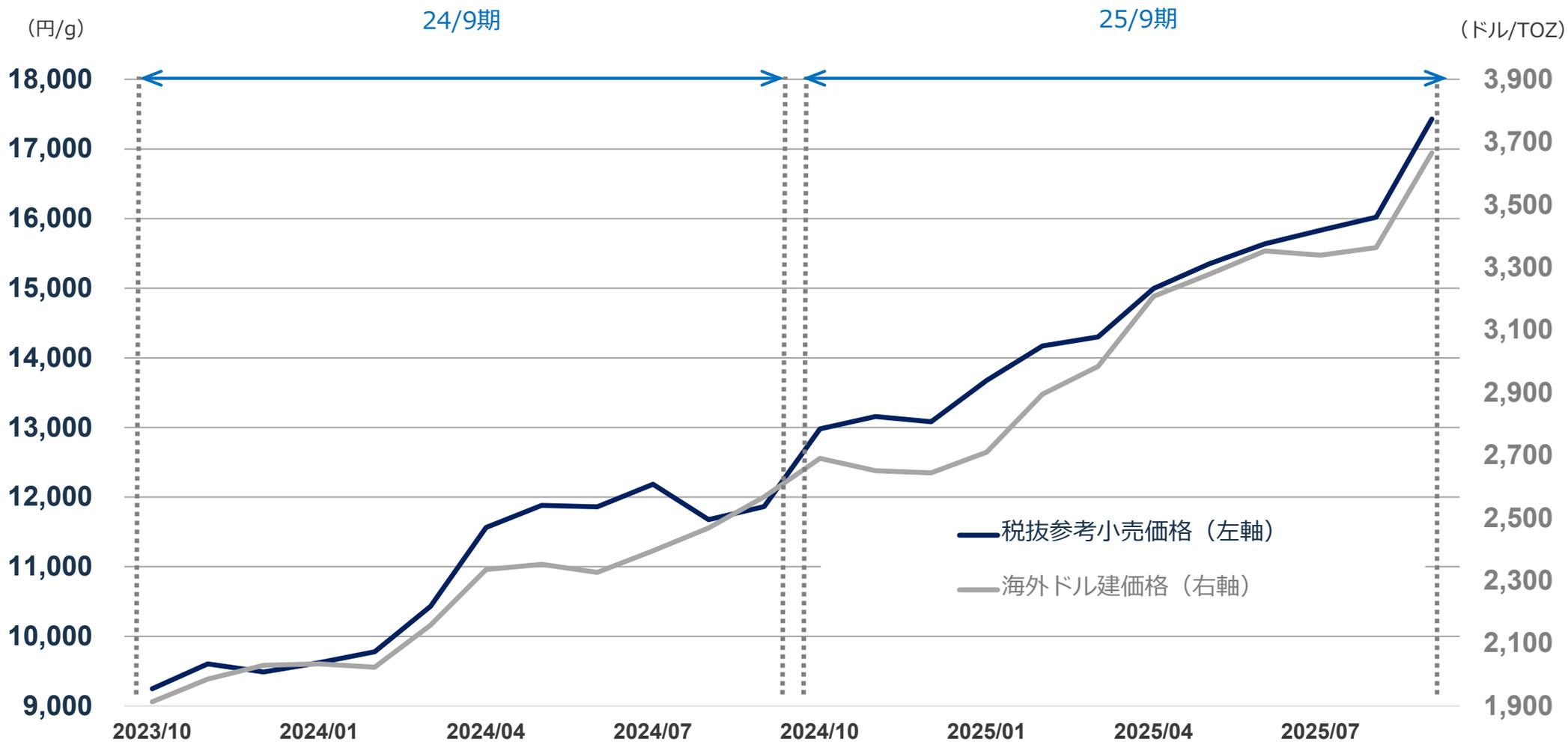


- ※1 2026年9月期の配当予想は1株当たり12円(中間配当4円：期末配当8円)を予定しています
- ※2 2028年4月の量産稼働開始から1年程度で稼働を安定化させ、収益も安定化する計画

---

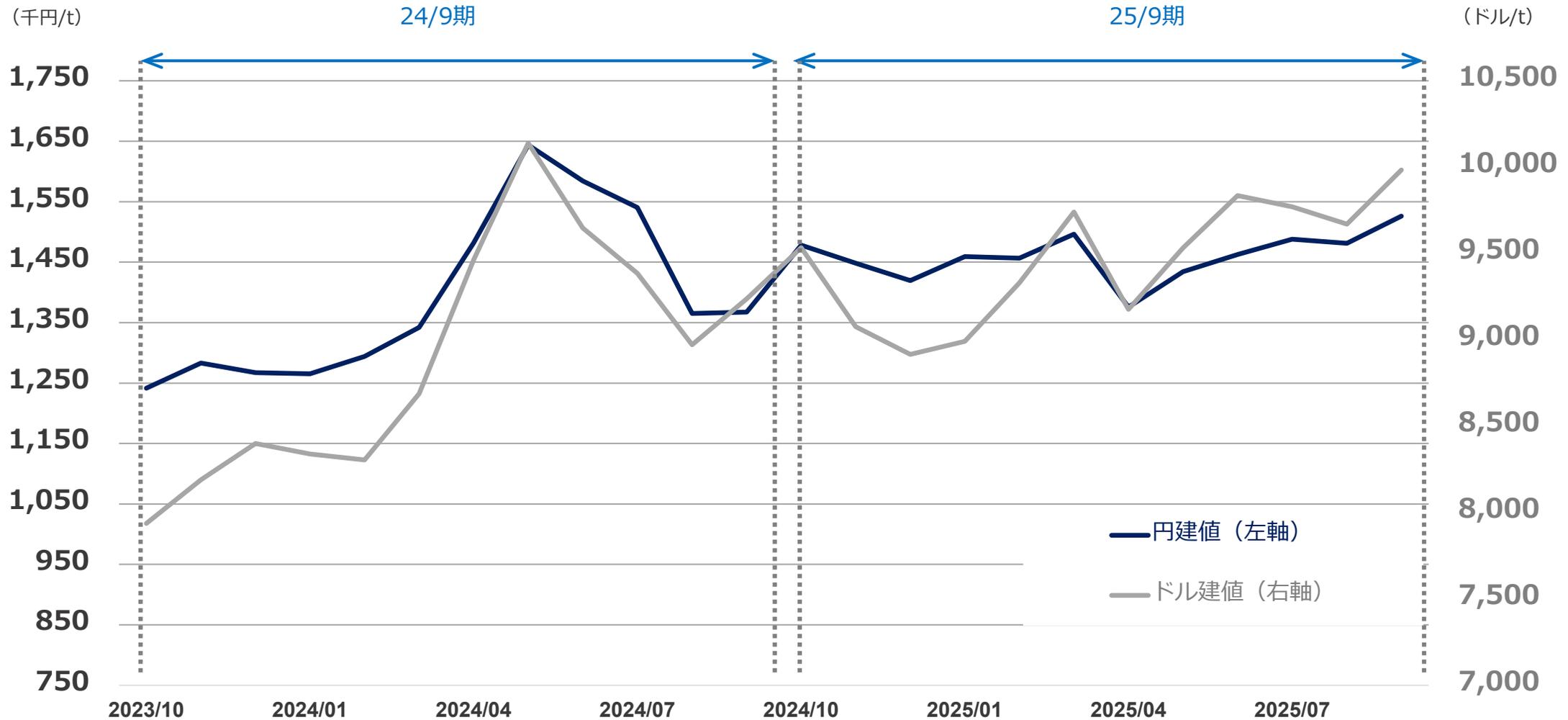
# Appendix

# 金相場推移



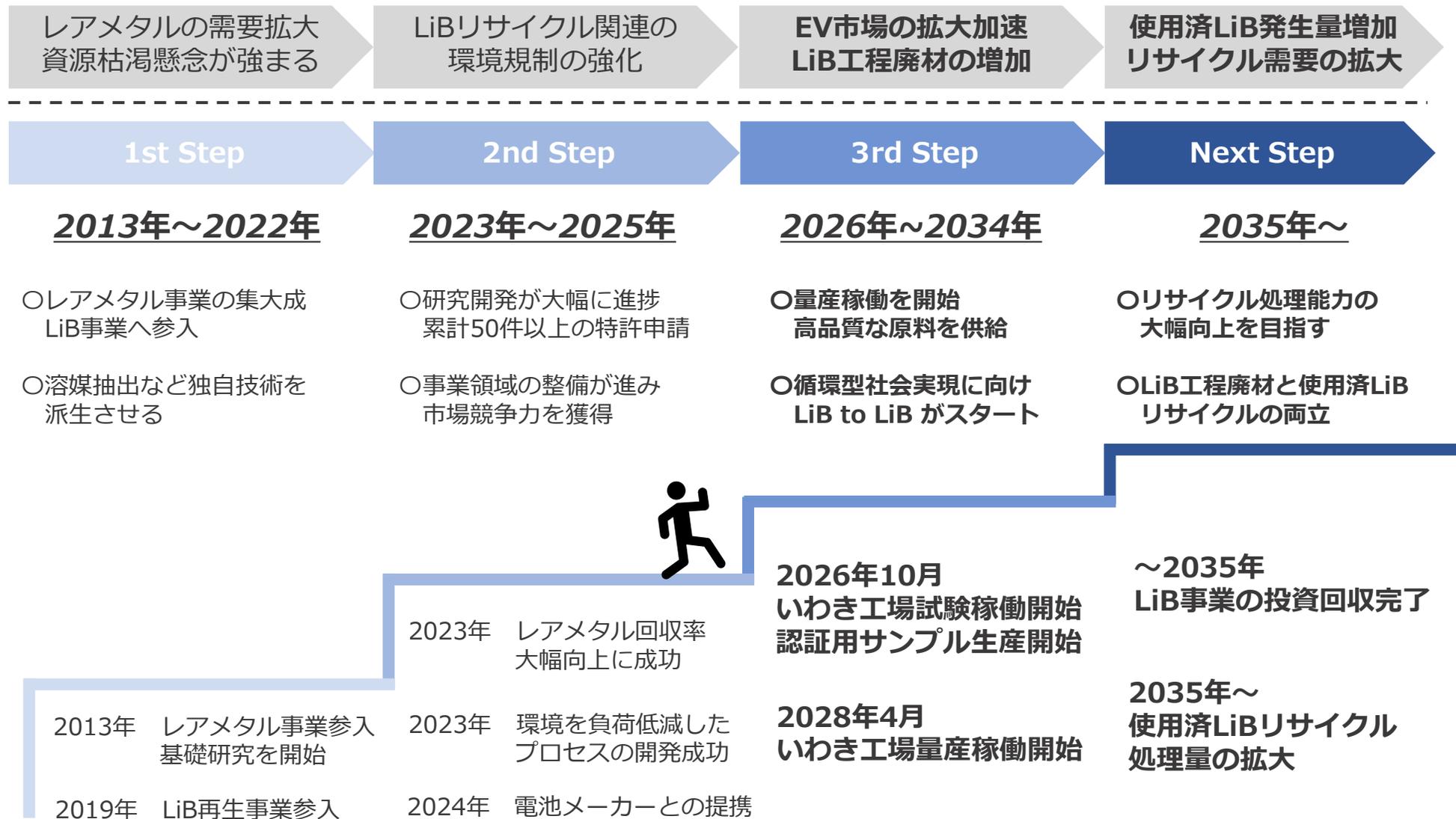
グラフ：田中貴金属工業 月次金価格推移より

# 銅相場推移

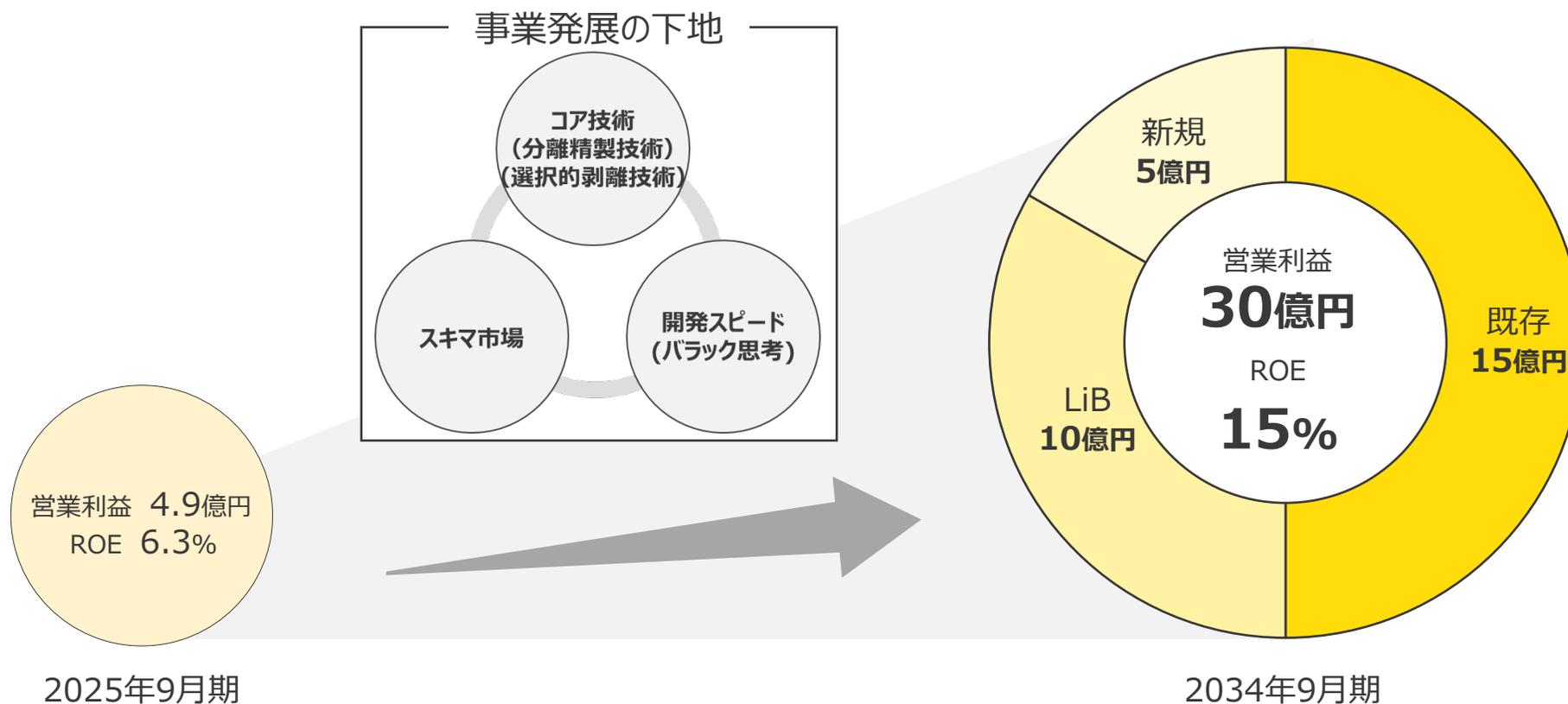


円建グラフ : JX金属 銅建値月間平均推移より  
 ドル建グラフ : 世界の経済・統計情報サイト 銅価格の推移(月次)より

# LiB再生事業のロードマップ



## 新たな挑戦を通じて 資源循環社会の実現に貢献できるNo.1企業



## 免責事項

- ✓ 本書には、当社及び当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ✓ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められる会計原則に従って表示されています。既に行っておりまして今後の見通しに関する発表につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ✓ 本書はいかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付の申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。



**ASK**

**株式会社アサカ理研**